

2022年3月期
第2四半期

決算補足 説明資料

2021年11月8日



証券コード：8715



全体目次

1

第2四半期決算概要

2

重点施策の進捗状況

3

APPENDIX

第2四半期決算概要

1. 全体サマリー（経常収益・経常利益）
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常利益の増減要因（対前年同期比分析）
4. 貸借対照表 サマリー
5. 経常費用・利益のパラメータ



経常収益

26,336 百万円

前年同期は23,595 百万円 **11.6%**増 計画は26,000百万円 **1.3%**増
うち、保険引受収益：23,297百万円 前年は21,190百万円 9.9%増

経常利益

1,609 百万円

前年同期は1,330 百万円 **21.0%**増 計画は1,500百万円 **7.3%**増

堅調なペット飼育需要を背景に、新規契約の獲得は好調に推移する一方で、通院頻度と診療費単価の上昇により、損害率の高止まりが継続している状況

■ 経常収益（対前年同期比）

- 4-9月の新規契約件数は**11.9万件（11.2%増）**で**過去最高**を達成、同保有契約件数は**98.1万件（12.7%増）**
- 動物病院・遺伝子検査・ブリーダーマッチングサイト等も堅調に推移し、その他経常収益も**2,654百万円（25.2%増）**と順調に拡大
- 保険引受収益、その他経常収益、資産運用収益の全てにおいて計画達成

■ 経常利益（対前年同期比）

- 保険引受収益や資産運用収益の増加等により、**1,609百万円（21.0%増）**、計画比で**7.3%増**
- コロナ禍での在宅時間の増加や飼育初心者の増加、また診療費のインフレ等の影響もあり、通院頻度及び診療費単価の増加傾向が継続
→損害率が高止まりしているが、一定の落ち着きも見え始めている。
- 保険金の支払い促進により、異常危険準備金の戻入額も増加→利益にはプラスの影響

	21年3月期 2Q	22年3月期 2Q	(百万円) 対前年同期比 増減率
経常収益	23,595	26,336	11.6 %
保険引受収益	21,190	23,297	9.9 %
資産運用収益	284	384	35.0 %
その他経常収益	2,120	2,654	25.2 %
経常費用	22,265	24,726	11.1 %
保険引受費用	15,125	16,732	10.6 %
・正味支払保険金	(11,346)	(12,586)	10.9 %
・損害調査費	(561)	(552)	△ 1.6 %
・諸手数料及び集金費	(2,158)	(2,599)	20.4 %
・支払備金繰入額	(209)	(241)	15.2 %
・責任準備金繰入額	(850)	(753)	△ 11.4 %
(うち未経過保険料)	(835)	(866)	3.7 %
(うち異常危険準備金)	(14)	(△112)	- %
資産運用費用	38	33	△ 12.7 %
営業費及び一般管理費	6,433	7,165	11.4 %
その他経常費用	668	795	19.0 %
経常利益	1,330	1,609	21.0 %
純利益	718	1,281	78.3 %

■ 主な勘定科目の増減理由

① 保険引受収益

➢ 対前年同期比で、保有契約件数が**110,619件増加（12.7%増）**、新規契約件数が**12,052件増加（11.2%増）**

② 資産運用収益

➢ 株式投信・REITに加えて債券等の運用を拡大し堅調な資産運用収益を確保

③ その他経常収益

➢ 動物病院・遺伝子検査・ブリーダーマッチングサイト等のその他経常収益が拡大

④ 正味支払保険金

➢ 保有契約の増加及び通院頻度/保険金単価の増加により、支払保険金が増加

⑤ 諸手数料及び集金費

➢ 新規契約件数の増加及び競争激化により増加

⑥ 責任準備金繰入額

➢ 異常危険準備金戻入額の増加により減少

(参考) アニコム損保 保険重要指標

(百万円)

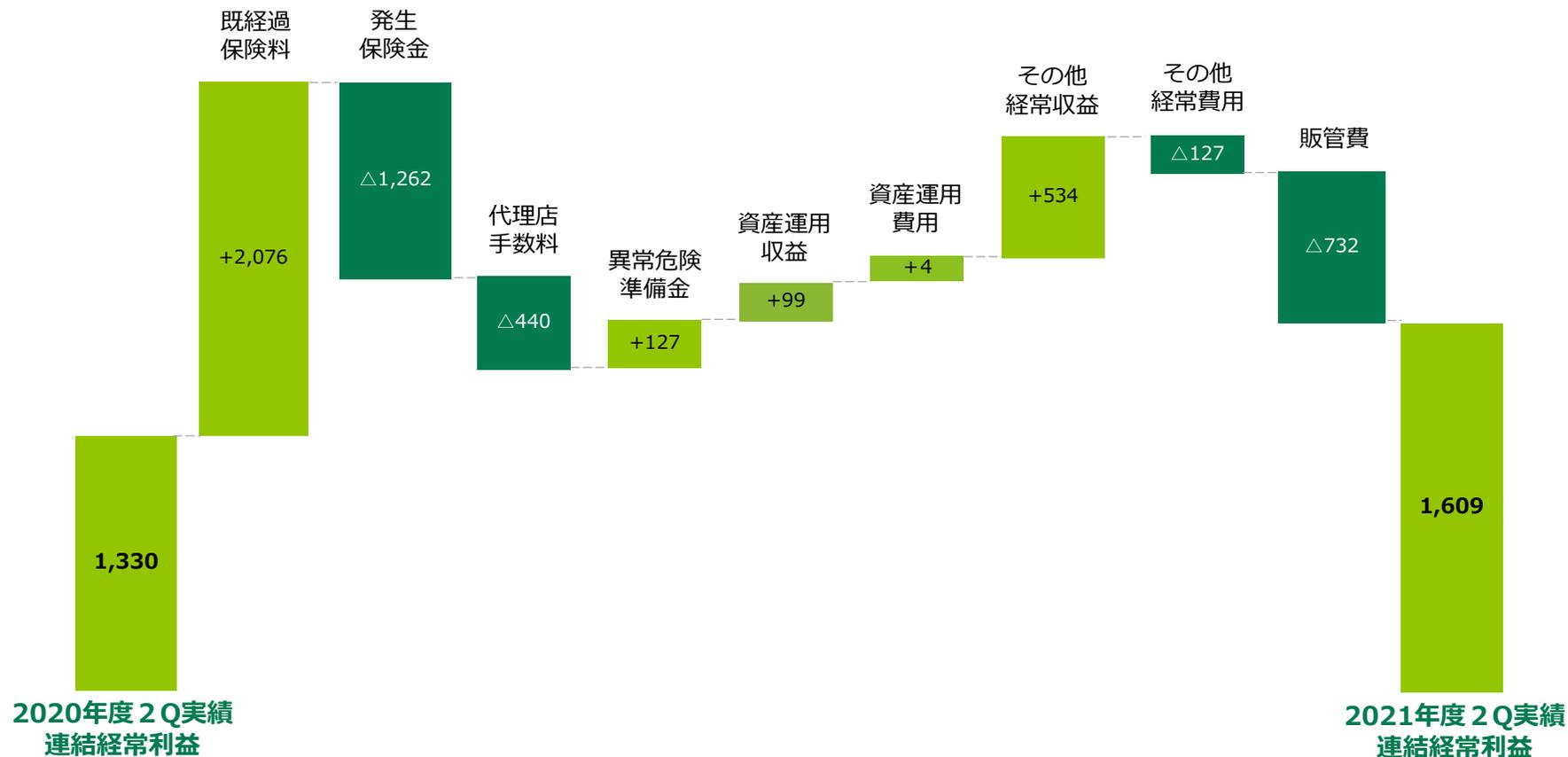
	21年3月期 2Q	22年3月期 2Q	対前年同期比 増減率
既経過保険料	20,445	22,518	10.1%
発生保険金（損害調査費含む）	12,117	13,379	10.4%
E/I損害率①	59.3%	59.4%	0.1%
既経過保険料ベース事業費率②	37.2%	38.0%	0.8%
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	96.5%	97.4%	0.9%

保険引受収益の増加に加え、その他経常収益の増加も寄与し増益

※1 既経過保険料 = 保険引受収益 - 普通責任準備金繰入額 (未経過保険料)

※2 発生保険金 = 正味支払保険金 + 支払備金繰入額

※3 異常危険準備金 = 異常危険準備金繰入額 + 異常危険準備金戻入額



(百万円)

	21年3月期末	22年3月期 2Q	対前期末比 増減率
資産合計	55,459	58,338	5.2 %
現金及び預貯金	31,683	29,942	△ 5.5 %
有価証券	11,667	15,768	35.2 %
固定資産	5,987	6,160	2.9 %
その他資産	6,121	6,466	5.6 %
負債合計	29,741	31,328	5.3 %
保険契約準備金	19,626	20,621	5.1 %
うち支払備金	2,539	2,780	9.5 %
うち責任準備金	17,087	17,840	4.4 %
社債	5,000	5,000	- %
その他負債	5,115	5,707	11.6 %
純資産合計	25,717	27,009	5.0 %
株主資本	25,648	26,828	4.6 %
評価・換算差額等	69	181	162.0 %
負債・純資産合計	55,459	58,338	5.2 %

■ 主な勘定科目の増減理由

- ① **有価証券**
 - 株式投信やREIT等に加えて債券等の運用を拡大
- ② **社債**
 - 2020年9月の第1回無担保社債の発行により調達
- ③ **評価・換算差額等**
 - その他有価証券評価差額金の増加

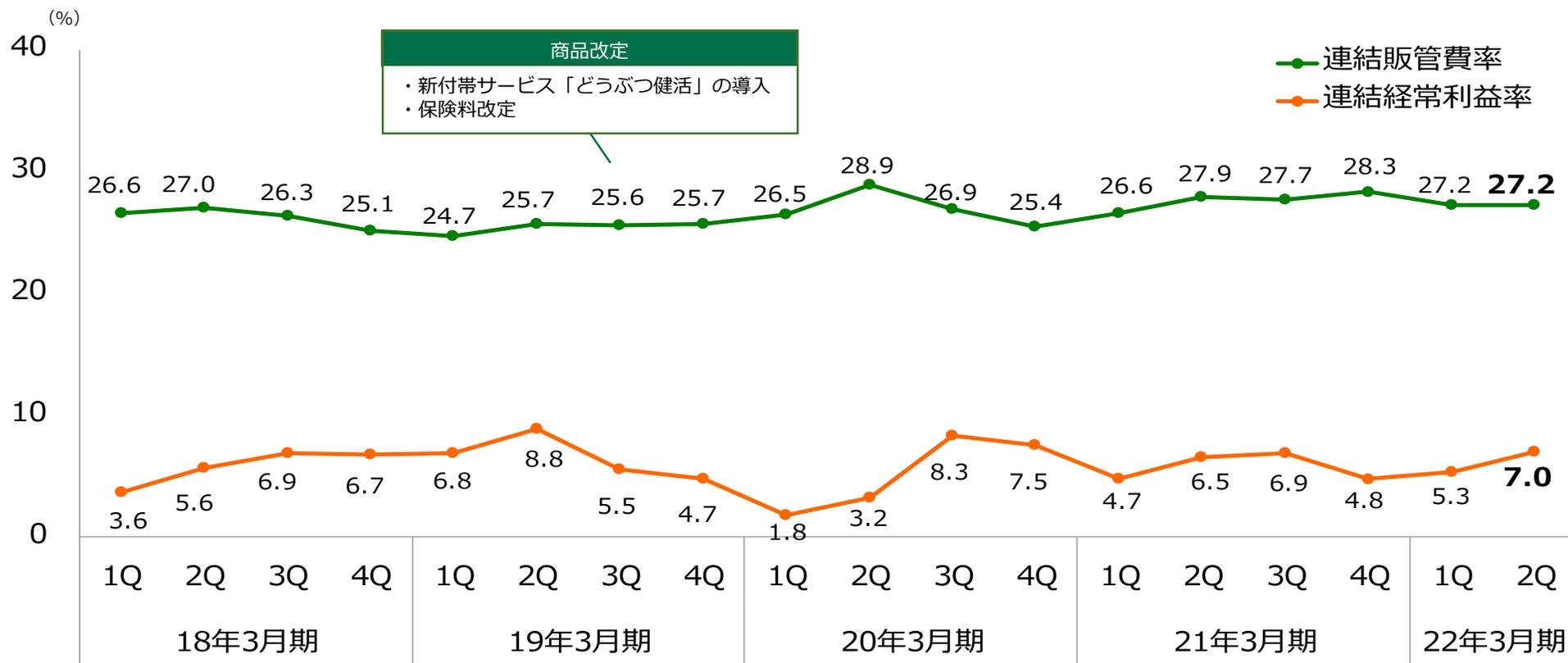
5. 経常費用・利益のパラメーター※販管費率、経常利益率（連結）

決算概要

重点施策

APPEN
DIX

※ アニコム損保単体の経営パラメータ（損害率・事業費率・契約件数）はAPPENDIX参照



販管費率・経常利益率（連結）について

コロナ禍での通院頻度や保険金単価の増加による発生保険金の増加や競争激化による代理店手数料等の増加があったものの、これらのコスト増を保険の新規契約の獲得や、その他経常収益の増加により吸収

重点施策の進捗状況

1. 重点施策の進捗状況（保険事業・資産運用）
2. 重点施策の進捗状況（その他事業）
3. トピックス



保険事業

新規・保有契約の状況

- 新規契約件数は4-9月で11.9万件となり過去最高、保有契約は98.1万件で年内100万件突破が視野に

販売チャネルの拡大・強化

- シムネット社との連携により、ブリーダーチャネルにおける新規契約も順調に拡大中
- 明治安田生命との取組みによる成果が、4-9月の新規契約獲得件数の過去最高達成に寄与



商品・サービスの拡大

- 「どうぶつ健活」の申込数の堅調な増加も寄与し、4-9月も安定した継続率を維持（87.7%）

診療フローチャートの導入

- 診療フローチャートをWeb媒体で公開
 疾患フローチャート：75疾患
 獣医師向けフローチャート：90疾患
 犬症状別鑑別フローチャート：11症状
- 動物病院検索サイトに症状別検索機能とフローチャート誘導機能を追加



TOPページ
「症状から探す」

症状一覧の中から
該当のものを選択

当該症状についての
おすすめ病院一覧が表示

資産運用

- 柔軟かつ機動的な資産運用により、9月末時点の年度計画進捗率は順調な状況
- ペット共生住宅（アニコフローラ東中野）は8月より満室稼働中で、賃貸収入にも貢献



その他

- ペットの写真から病気を予測するシステム他、9月末までに20件の特許を出願
- データベース（どうぶつ住民基本台帳）構築に向けた開発を開始
AIによる個体識別を行い、どうぶつ住民登録をする仕組みを開発中
- AIを活用した写真からの個体識別及び疾病等の予測
飼い主にとって直感的に、わかりやすく、収集が容易な「写真」を活用し、顧客感動体験の提供と同時に、顧客満足度及び予防情報の提供へ繋げるべく、個体識別、品種判定の実証実験を継続中（一部を外部公開）



産まれる前から

川上



遺伝子検査事業の拡充

- 4-9月の遺伝子検査検体数**5.4万件超**
- ロボットを導入し遺伝子検査体制を強化
- 性格（行動）、品種、毛色、体質、親子判定などを一度に測定可能に。実装準備が進行中

シムネットのグループインによるシナジー効果創出

【シムネット社2021年度2Q業績】

■売上高	:	968 百万円
■経常利益	:	132 百万円
■経常利益率	:	13.6%

ブリーディングサポートの事業化

- 動物愛護法の改正対応に向けた各種サポート（医療、販売、引退動物等）を推進中
- 交配や出産に係る研究を継続（幹細胞の投与、凍結精子保存技術の向上に向けた研究等）

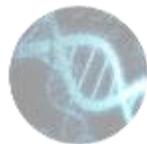
ブリーディングサポートメニュー進捗状況

- 遺伝子検査 ⇒ DNA親子証明書トライアル開始
- 繁殖・交配サポート ⇒ 幹細胞の投与等
- 医療サポート ⇒ 定期巡回往診トライアル開始
- 販売サポート ⇒ ペットショップ・病院お迎えスキーム検討等
- システム・事業支援 ⇒ システム開発中
- 引退/保護犬猫の引取・譲渡
⇒ VISON内「ani terrace（アニテラス）」運営開始準備中

日々の暮らし ～ 治らないを治す

川中

川下



健康診断+フード・商材等の事業化

- 4-9月の「どうぶつ健活」申込数 **9.1万件**
- 「きみのごはん」シリーズ
DNAフードを9月2日から腸内フローラ
フードを10月5日から販売開始
- 検査により発見されたリスクに対し、エビ
デンスのある有効成分を配合したフードを
個々（One to One）に提供



動物医療関連(予防～一般・再生医療)

- 直営動物病院は**56病院**（手術対応可能**13
病院**）となり、順調に拡大
- 再生医療普及のための動物再生医療技
術研究組合は、**9月末時点で加入動物
病院が349病院に**
- **7月より再生医療協力金制度を開始**



社会課題の解決（CSR活動）

- 犬・猫が生涯幸せに暮らせる社会を目
指して「ani terrace（アニテラス）」を
運営開始へ（22年1月予定）



三重県多気町に誕生した日本最大級の商業
リゾート「VISION（ヴィソン）」内にて運営

取組み

- 殺処分ゼロに向けた犬猫の譲渡
- その他飼い主向けサービス
ペットをお預かりするホテル、ドッグラン等

アニコムのコア・コンピタンス：データを活かしたどうぶつの健康維持支援で、心の発電力を上げる

遺伝子検査

腸内フローラ測定

再生医療

標準診療フローチャート

AI活用

ビッグデータ
の構築・活用

×

特許知財化

更なる優位性の獲得

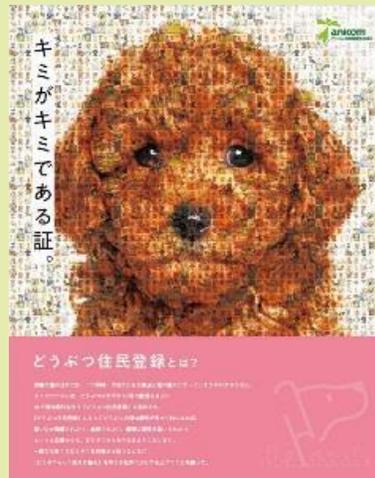
命の繋がりを証明し、その結果として個の存在が証明される
「**どうぶつ住民登録**」を起点とした各種サービスの提供

“どうぶつの尊厳”を守るための『どうぶつ住民登録』システム開発の取組み

『どうぶつ住民登録』がもたらす社会とは、

(10月5日：プレスリリース配信、11月1日：マスコミ向け説明会実施)

- AIにより、どうぶつの顔写真・動画を活用して**個体登録・識別を行うことが当たり前になる社会**
- どうぶつを「個」・「家族の一員」として**認める社会**
- どうぶつの**健康を守り、より豊かな暮らしを提供する社会**
- 災害時の迷子の捜索をはじめ、遺棄や虐待の危険から**どうぶつを守る事が出来る社会**



『どうぶつ住民登録』を起点とした 新たな付加価値と顧客感動体験の提供へ

- AI個体識別による「どうぶつ住民登録」の実現により、「**どうぶつ住民基本台帳**」を構築
- 品種、毛色、髪型、居住地などと、顔写真での個体識別を組合わせた**相対的個体識別**の活用
- **顧客ニーズに寄り添った感動体験**の提供により、グループ各社のサービス拡大に繋げる

顧客の求める体験例

事業・サービス展開例



APPENDIX

1. 主要経営パラメータ

2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ

(ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移)

3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ

(損害率 (E/I)、既経過保険料ベース事業費率)

4. 保険事業以外の事業の収益機会と ペット保険のシナジー相関



1. 主要経営パラメータ

決算概要

重点施策

APPEN
DIX

	21年3月期 2Q	21年3月期末	22年3月期 2Q	対前年同期比		対前期末比	
				件数	増減率	件数	増減率
① 保有契約数	870,987 件	921,873 件	981,606 件	110,619 件	12.7 %	59,733 件	6.5 %
② 新規契約数	107,295 件	213,368 件	119,347 件	12,052 件	11.2 %	-	-
③ 継続率	87.5 %	87.7 %	87.7 %	-	-	-	-
④ 保険金支払件数	1,857 千件	3,752 千件	2,003 千件	146 千件	7.9 %	-	-
⑤ 対応動物病院数	6,485 病院	6,541 病院	6,629 病院	144 病院	2.2 %	88 病院	1.3 %

22年3月期末 (5月12日予想)
1,010,000 件
223,000 件
87.1 %
4,000 千件
6,650 病院

	21年3月期 2Q	22年3月期 2Q	対前年同期比 増減率
⑥ E/I損害率	59.3 %	59.4 %	0.1 %
⑦ 既経過保険料ベース事業費率	37.2 %	38.0 %	0.8 %
⑧ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	96.5 %	97.4 %	0.9 %

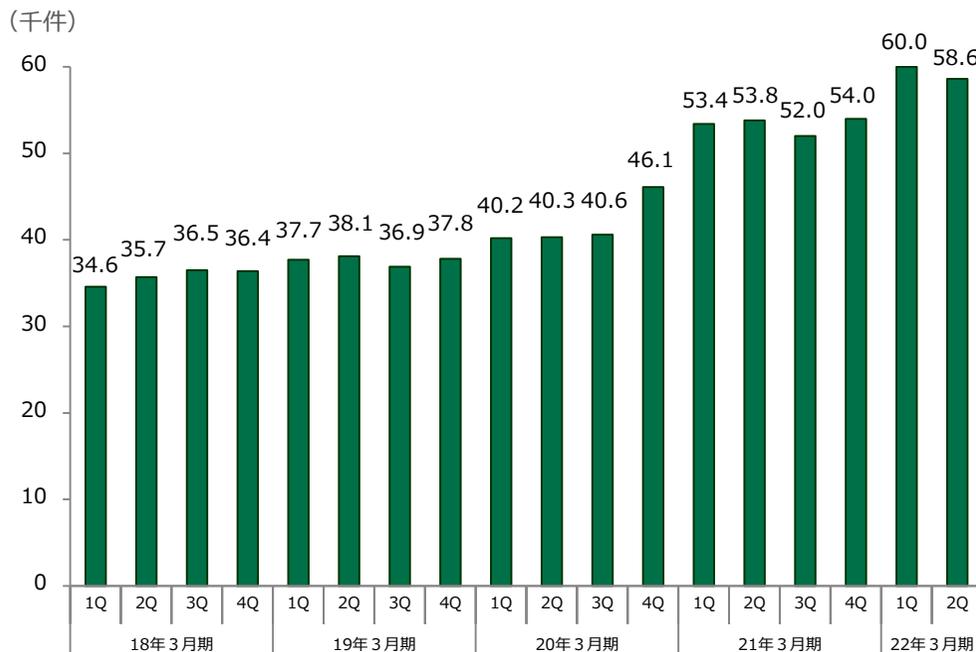
22年3月期末 (5月12日予想)
58.0 %
38.0 %
96.0 %

	21年3月期末	22年3月期 2Q	対前期末比 増減率
⑨ 単体ソルベンシー・マージン比率	355.5 %	350.0 %	△5.5 %

22年3月期末 (5月12日予想)
350 % 前後

	21年3月期 2Q	22年3月期 2Q	対前年同期比 増減率
⑩ どうぶつ健活(腸内フローラ測定)申込数	69,509 件	91,669 件	31.9 %
⑪ 遺伝子検査検体数	53,031 件	54,688 件	3.1 %

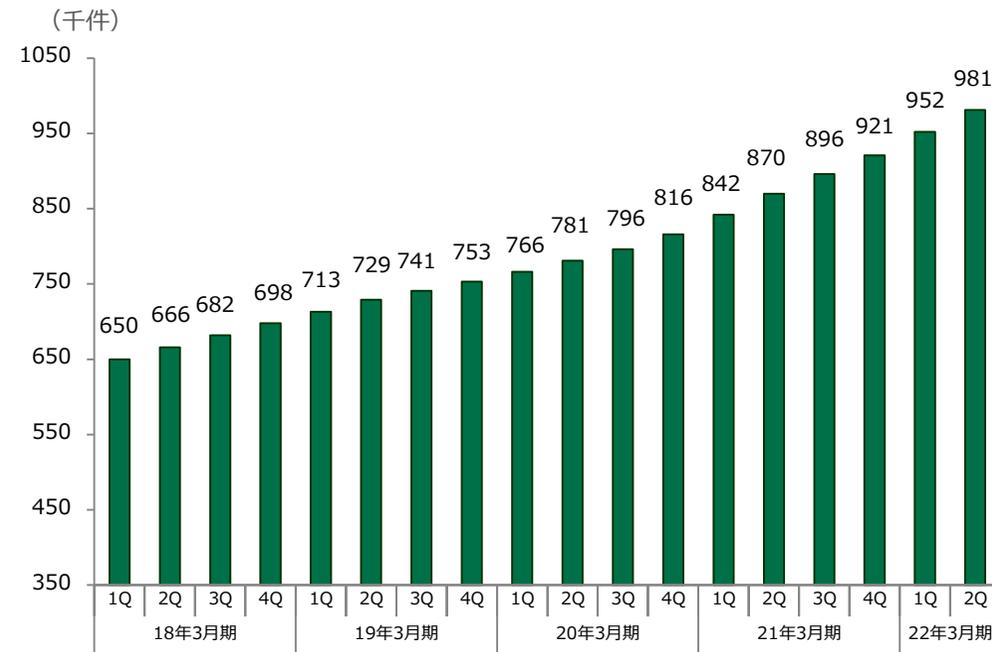
新規契約獲得件数の四半期推移



新規契約獲得は堅調

NB・一般チャネル合わせて11.9万件を超え、年間計画22.3万件に対して53.5%の進捗率で推移

保有契約件数の四半期推移



保有契約件数

98.1万件となり、順調に増加。
今年度中に100万件突破を狙う

3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ

【参考情報】

15年3月期 1Q

■ 保険料改定

・平均12%の改定

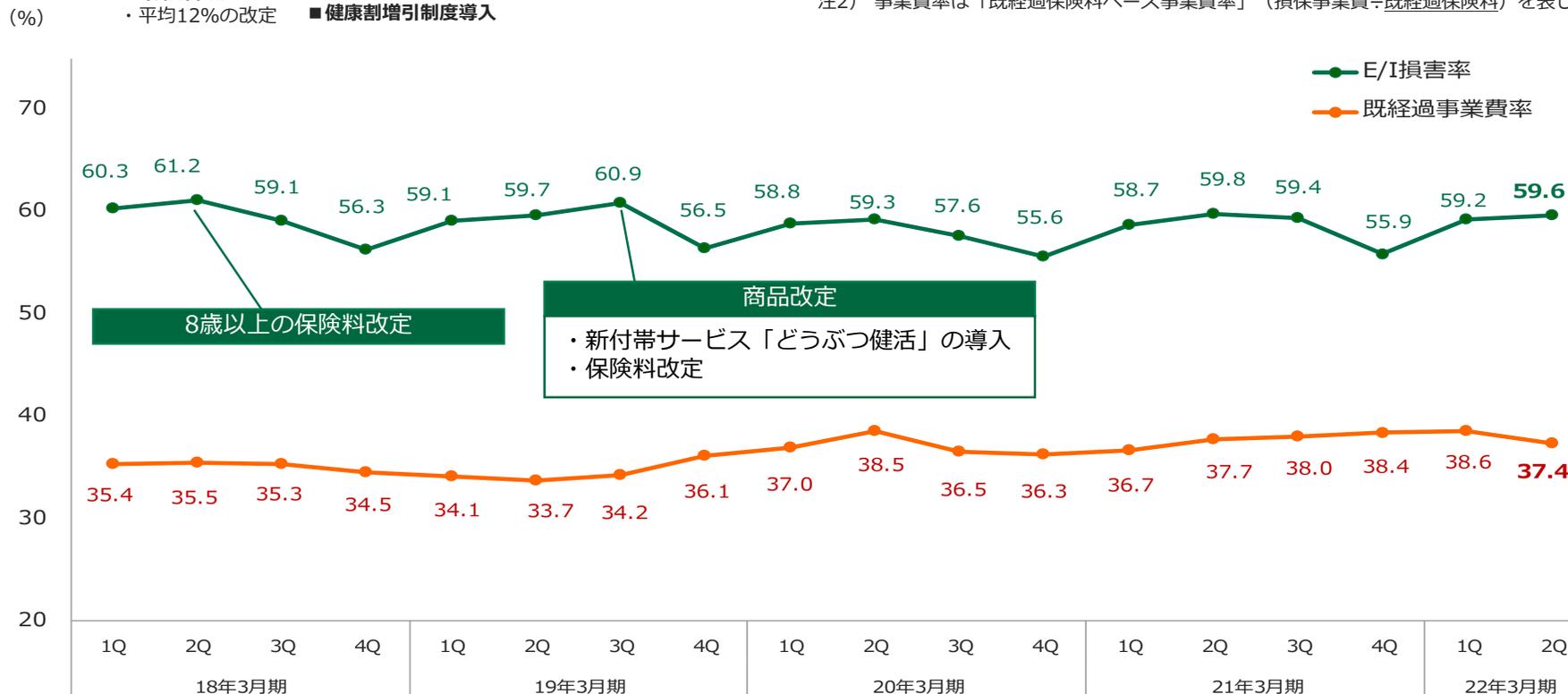
15年3月期 3Q

■ 限度日数付き新商品

■ 健康割増引制度導入

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。

注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



E/I損害率について

当期は新規契約件数の増加により商品ポートフォリオの改善が進む一方、コロナ禍の巣ごもりによりペットの異変に気付く等で通院頻度及び保険金単価が増加した結果、発生保険金が増加し、高止まり傾向

事業費率について

事業拡大に向けた積極投資の継続、独自サービスである「どうぶつ健活」のコスト増、新規契約件数の増加及びNBチャネルの競争激化に伴う代理店手数料の増加等の影響で上昇傾向

どうぶつの
ライフステージ

保険事業以外の事業の収益機会

保険事業
への寄与

資産運用

展開

川上



遺伝子

- ・ 遺伝子検査事業

交配・出産

- ・ マッチングサイト
- ・ ブリーディング支援
- ・ 精子バンク

ペットショップ

- ・ しつけサービス提供
- ・ 遺伝子検査証明書の発行

- ・ 遺伝子ベースの保険料設計や引受診断
- ・ 新生児チャネルを拡大
- ・ 遺伝病減少にともなう損害率低下

川中



日々の暮らし

- ・ フード開発と販売
- ・ 他企業との連携

健康診断

- ・ 腸内フローラ測定事業
- ・ 保険新サービス付帯

一次診療(一般診療)

- ・ 電子カルテ拡販
- ・ 一次動物病院運営(海外含)
- ・ 予約送客事業

- ・ 保険の付加価値を向上
- ・ 生活習慣病予防による損害率低下
- ・ 企業集団の獲得

川下



二次診療(先進医療)

- ・ 再生医療提供
- ・ 二次動物病院運営

お別れ

- ・ ペット霊園紹介
- ・ 終生飼育施設

- ・ 重症化予防による損害率低下
- ・ 難病治療の確立に伴う損害率低下
- ・ 高齢者等の飼育に対して裾野を拡大

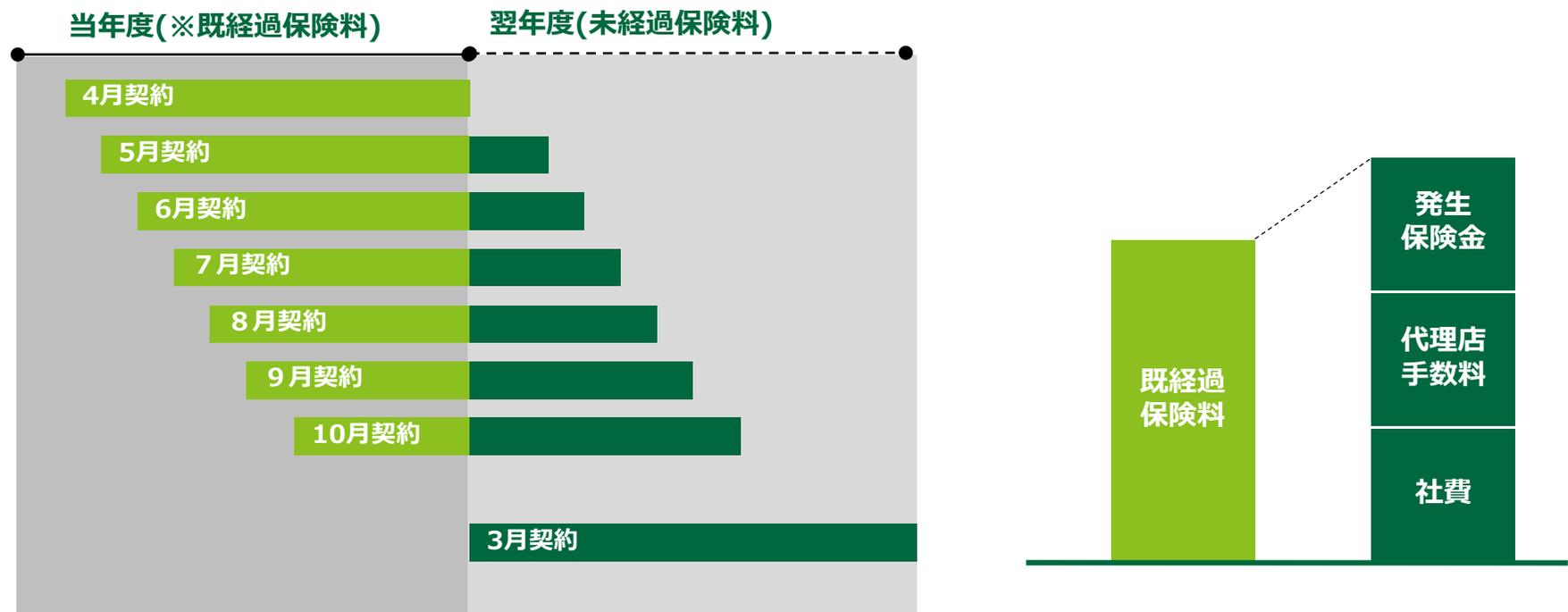
資産運用(不動産運用を含む)による下支え

ビッグデータの構築と活用

(参考) 保険会計が経常損益に与える影響

1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金（未経過保険料）として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響 (日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が毎期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率（※）が50%を超えると取崩し（費用のマイナス）が行われます。（※）正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部（IR事務局）

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階
URL : <https://www.anicom.co.jp/>

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。

本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。